箱には猫

浮魚塩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

箱には猫

【コード】

N4100M

【作者名】

浮魚塩

【あらすじ】

箱には猫が居た。というお話。

(前書き)

短いものを書きたかった。

それと、以前似たようなタイトルの話を投稿しましたが、一切関係ありません。

箱には猫が居た。

傘をさしながら僕はその横を通り過ぎた。

箱には猫が居た。

閉じた傘を片手に僕はその横を通り過ぎた。

箱には猫が居た。

千切ってきた朝食のパンを与えてやった。

箱には猫が居た。

給食のパンを半分くらい置いて帰った。

箱には猫が居た。

またパンを与えてやった。

箱には猫が居た。

パンと少しの牛乳を置いて帰った。

箱には猫が居た。

昨日のパンも牛乳も残っていた。

箱には猫が居た。

朝与えたパンも残っていた。

箱には猫が居た。
清潔にしてない猫は臭かった。
箱には猫が居た。
与えてやったパンもカビてしまった。

箱には猫が居た。
昨日より臭くなっていた。
箱には猫が居た。
以前より毛並みが悪くなっていた。

箱には猫が居た。
雨が降っていたから傘を立ててやった。
箱には猫が居た。
痩せ細っていた。

箱に猫は居なかった。
腐った食べ物だけが残っていた。
箱に猫は居なかった。
箱も無くなっていた。

(後書き)

作中の僕の行動に、猫はどんな感情を抱いたのでしようか。

空箱を見た僕は何を思ったのでしょうか。

…もしかすると、彼は最初からこの結末が分かっていたのかもしれない。

小さい頃、私と友人とで捨てられていた子猫の貰い手を探して歩いた事がありました。

まあ、捨て猫の引き取り手が簡単に見つかるはずもなく、結局、近所のお婆さんが山に捨てに行くことになってしまいました。

子猫にとっては二度も捨てられたことになります。私達は酷いことをしてしまったのではないか。要らぬ優しさだったのではないか。と、思うことも。

今となつては記憶も曖昧ですが、それでも何かしてあげたかったという気持ちに嘘はなかったはずですよ。

言ってしまうえば綺麗事です。…けれど、「なにもしない」という選択も正しくはない気がするのです。

つと、このままでは本文より後書きの方が長くなってしまふ(笑) まあ、思い出に残るシヨリの様なものを、お話にしたという話なのです。

相変わらずまとめきれっていませんが…(泣)

それでは失礼しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4100m/>

箱には猫

2010年10月28日00時41分発行